

平成22年度入学式

夢と希望を持って、福岡歯科大学へ



福岡歯科大学歯学部・大学院の平成22年度入学式が4月2日、来賓ならびに家族の列席のもと福岡歯科大学本館講堂で挙行されました。

緊張の面持ちの78人の歯学部新入生に北村憲司大学長は、「歯科医療を取り巻く厳しい環境の中、本学で歯科医師を目指す決心をされた新入生の皆さんに心から敬意を表しますと共に、今日の決意を忘れずに学の研鑽に励んでいただきたいと思います。歯科医療は単に歯の病気を治すために必要なのではなく、歯や

口腔によってもたらされる豊かな表現、社会活動を円滑に行うために必要なものです。「口腔医学」という、福岡歯科大学の次の十年を見据えた新しい教育を受け、次代の国民の健康を守ることに、常に心を砕きながら、本学での学びの6年間を過ごされることを切に希望します。」と期待を述べました。

16人の大学院入学生に対しては、「歯科医療が生命科学の一分野として広がっていくためには、科学的思考に口腔医学としての再編



が必要であり、その再編は皆さんの創造性と哲学性に掛かっています。新しい口腔医学の担い手として臨床と研究を結ぶ“洞察力を持った歯科医師”として大きく成長され、日本の、世界のリーダーとして、新しい時代を先導してくださることを大いに期待します。」と式辞で述べました。

新しい気持ちでスタート、福岡医療短大



福岡医療短期大学の平成22年度入学式が、キャンパスに桜が咲き誇る4月7日、福岡歯科大学本館講堂で執り行われました。式辞の中で栢豪洋短大学長は「本学は、他大学にはない

特色として、キャンパス内に介護老人保健施設と特別養護老人ホームの施設を設置しており、そこで介護のできる歯科衛生士、口腔ケアもできる介護福祉士の養成に力を注いでいます。将来、皆さんは、知識や技術の習得だけでなく、口腔ケアに必要な患者さんや介護の必要なお年寄りに優しい心で接して支えることができる歯科衛生士や介護福祉士になっていただきたい。また専攻科に入学の皆さんは、口腔保健学を学び、これから更に口腔ケアの高度な知識や技術を身につけて、日本の歯科衛生士

のレベルを更に引上げていただきたい。」と述べ、希望に胸をふくらませた133人(歯科衛生学科93人、保健福祉学科30人、専攻科10人)の新入生にエールを送りました。



平成23年度入学生より初年度学生納付金を160万円引き下げ

厳しい社会経済状況や私立歯科大学・学部の志願者が急激に減少する中で、今後、本学が持続的発展を遂げ、社会の要請に応える有為の人材の確保・育成競争に打ち勝つため、平成23年度入学生より学生納付金を次のとおり改定します。これにより、初年度学生納付金が160万円引き下げられます。

区分	初年度学生納付金		毎年度学生納付金(年額)		初年度計	6年間計
	入学金	教育充実資金	授業料	施設維持費		
現状	600,000	6,000,000	3,800,000	500,000	10,900,000	32,400,000
平成23年度入学生より適用	600,000	4,400,000	3,500,000	800,000	9,300,000	30,800,000